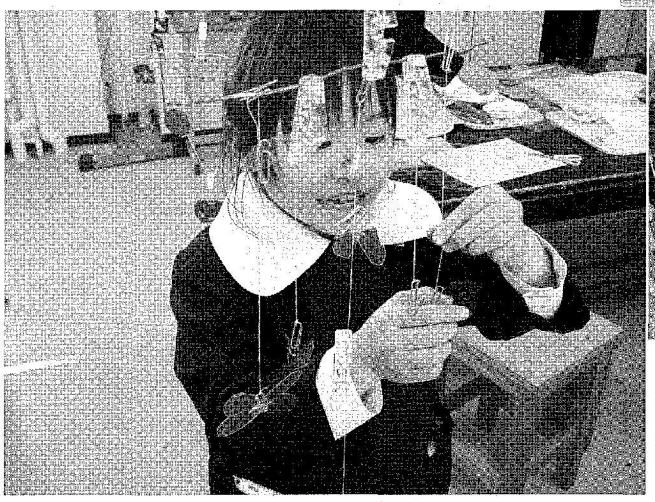
図画工作科の研究

佐藤　昌弘



キーワード

双方向の鑑賞活動　　造形技能を試す場

主　張

図画工作科で目指す「表現と対話しながら新たな表現をつくる子ども」とは，つくりつつある表現をよく見つめ，自分らしいよさや表現課題を見出すとともに，自分の造形的な見方・考え方をとらえ直しながら発想・構想を重ねて，自分にとっての新たな表現ができるまでつくり続ける子どもである。

今年度は鑑賞活動の中に，仲間の表現に対して自分だったらこの後どうしていくかということを構想して伝え合う「双方向の鑑賞」を位置づける。このことにより，今までの経験にはなかった造形技能が把握され，見方・考え方を広げるきっかけや，更に表現を進めていこうとする意欲の高まりを生み出す。その中で，造形技能を試す場を設けると子どもは自分に引き寄せた対話を活発に行いながら，よさの生かし方や課題の解決の仕方を考え，表現の核となる造形技能に対する見方を更新し，発想・構想を再構成して新たな表現をつくりあげてくることが期待される。

Ⅰ　表現と対話しながら新たな表現をつくる図画工作科

1．図画工作科で求める子ども

求める子ども

表現と対話しながら新たな表現をつくる子ども

「意欲・態度」

表現のよさや課題を見出そうとする力

「中核となる学力」

願いにふさわしい表現に向かう，発想力･構想力，表現との対話力

図画工作科では，「表現と対話しながら新たな表現をつくる子ども」を目指す。これは，自分の表現をよく見つめ，願いを膨らませたり願いに向かって発想･構想を繰り返したりして，自分にとって新しい表現となるまでつくり続ける子どもである。

図画工作が好きな子どもは多いが，発想や構想を繰り返して表現を練り上げたり，自分の造形技能の高まりを自覚したりして，満足するまでつくり続けようとする子どもは少ない。これは，自分らしいよさの生かし方や表現課題を明らかにし，そのために必要な造形技能はどのようなものなのか，表現との対話を重ねる中で見出していくという学びが弱かったからである。

そこで，今年度は表現との対話を効果的に行うための鑑賞の在り方に着目し，表現過程に仲間の表現に対して，自分だったらこの後どうしていくかということを伝え合う「双方向の鑑賞活動」を位置づけた。これは，仲間の願いやできつつある表現を手がかりに自分なりの解釈をして，今後どのように表現を進めていけそうか伝え合う鑑賞である。このことにより，今までの自分の経験にはなかった造形技能が把握され，子どもの見方・考え方を広げるきっかけや，更に表現を進めていこうとする意欲の高まりにつながる。こうした状況で造形技能を試す場を位置づけると，自分に引き付けた表現との対話を活発に行いながら，子どもはよさの生かし方や課題の解決の仕方を考え，その過程で表現の核となる造形技能に対する見方を更新してくる。そして，新たな造形技能に対する見方をもとに発想・構想を再構成し，自分にとっての新たな表現をつくりあげてくる。これが図画工作科で求める子どもの姿である。

2．カリキュラム改善の視点

(1)　造形遊びとつくりたいものをつくるを関連させた単元の重点化を図る

様々な造形技能を試し，追求の足場を効果的に養う造形遊びと，構想力を働かせて発想と造形技能をつなぎ，納得のいくわかりを生み出す「つくりたいものをつくる」を関連的に扱い，学期ごとに重点単元として位置づける。そして，表現過程に鑑賞を位置づけて，対話しながら表現を練り上げていくという学び方をはぐくみ，他の表現にも生かしていけるようにする。

(2)　図画工作科ではぐくむ資質・能力

対象から表したいことを豊かに感じ取ったり，願いにふさわしい表現となっているか自分の表現を見つめたり，表現効果を比較したり，他の表現から価値を見出したりすることに働く力を「表現との対話力」と設定し，図画工作科で重視する資質・能力として段階的にはぐくむ。

3．授業改善の方策

＜求める図画工作科の学びを具現するための学習過程＞

〈追求の足場をつくる過程〉

	〈教師の働きかけ〉
〔造形遊び（共同）〕 • 材料や活動のきっかけとなる表現から発想したことを交流する。	○材料や表現から発想したことを話し合う場の設定
◎発想したことを仲間と表現しよう。 • 仲間と材料や表現方法を選択し，表現効果を検討しながらつくる。	○表現と対話しながら表現効果を検討し，仲間と造形化していく場の設定
• 表現したものを鑑賞し合う。	○鑑賞活動を行い，表現の可能性を話し合う活動の組織

〈納得のいくわかりを生む過程〉

〔つくりたいものをつくる（個人）〕 • 新たに発想したことを表現しよう。 • 材料や表現方法を選択し，表現効果を検討しながらつくる。	○表現と対話しながら表現効果を検討し，構想した表し方で造形化していく場の設定
• 表現したものを鑑賞し合う。	○双方向の鑑賞活動を行い，よさや可能性を話し合う活動の組織
◎表現をよりよくしていくための表し方を見つけよう。 • 造形技能を試す。 表現の核となる造形技能に対する見方の更新	○造形技能を試す場の設定
• 材料や表現方法を選択し，表現効果を比較しながらつくる。 発想・構想の再構成	○表現と対話しながら表現効果を検討し，構想した表し方で造形化していく場の設定

〈納得のいくわかりができたよさを自覚する過程〉

◎自分たちの表現のよさを伝えるための方法を考える。 ・自分たちの表現を他者に伝える。 ・自分の表現のよさや成長を振り返る。	○表現を伝える方法を話し合う活動の組織 ○自他の表現を紹介し合う場の設定 ○表現と対話しながら自己評価する場の設定

4．評価法

(1) **作品解説書から評価する。**

• 作品ができあがったら，伝えたい意図を仲間と交流するための解説書を作成する。解説の中の，自分にとっての工夫や苦労したことの表現から，足場となる知識・技能の活用状況や，新たな意味や価値が造形的に形成されているかどうかを見取る。

(2) **友達との双方向の鑑賞の視点から評価する。**

• 鑑賞力を働かせる場面での振り返りに加え，子どもが表現したことの根拠について鑑賞力との関連から評価していく。

Ⅱ　実践の概要

第３学年　　「キラクル　モビール」

１．表現との対話力を働かせながら新たな表現をつくり上げていく学び

本単元ではＰＰシートと針金を主材料としてモビールをつくる。モビールは部品の形や下げ方，下げる棒の組み合わせによって，多様な形や動きを生み出すことができる。

まず，棒に紙をつなげてバランスをとる造形遊びを共同で行う中で，吊り合う仕組みや下げ方などの足場となる知識･技能を身に付けていく。次に，光という要素を取り入れて材料を透過性のあるＰＰシートに変えながら個々にモビールをつくる。子どもはつくりながら表現との対話を進め，モビールの空中での動きや形の広がり，透過する光の効果の美しさをとらえてくる。

自分の願う表現ができつつある状況で双方向の鑑賞活動の場を設定し，自分の表現の可能性や課題に着目できるようにする。仲間のモビールへの願いを自分なりに解釈し，どのように発展させていこうか考える中で，多様な造形要素が把握され「もっと表現を工夫していきたい。」と，意欲の高まりを生み出していく。そして，主題にふさわしい形やバランスを取るための構造，透過する光の効果などを考えてつくろうと表現との対話を活発に行う中で，表現の核となるモビールの構造に対する見方を更新してくる。その後，更新したモビールの構造に対する見方をもとに発想・構想を再構成し，自分にとっての新たな表現をつくり続けていこうとする姿を期待した。

２．単元の構想

(1)　単元の目標

空中で広がりや動きのある透過光を生かしたモビールをつくるには，重さのバランスを考えたり風の抵抗を受ける部品の形や色，材質を工夫したりするとよいことに気づき，自分の表したい形や特徴の表れた表現となるようにつくり進めていくことができる。

(2)　追求の構想　（全７時間）

１次　空中から形をつなげてバランスをとろう（２時間）

①　・吊るしたときにバランスが取れる形を表す。
②　◎吊るしたときにバランスが取れように紙をどんどんつなげよう。
　　・つくったものを光の中で見る。

２次　「キラクル　モビール」をつくろう（４時間）

③④・バランスを生かした，風で動くモビールをつくる。
⑤　・双方向の鑑賞活動をする。
　　◎表現をよりよくしていくための表し方を見つけよう。
⑥　・モビールの吊り合いや動きを試しながら，課題を解決するための方法を追求する。

３次　お気に入りの場所に吊るして作品展を開こう（１時間）

⑦　・できてきたもののよさをどうやってみんなに紹介するか考える。
　　◎キラクル美術館をつくってみんなに見てもらおう。

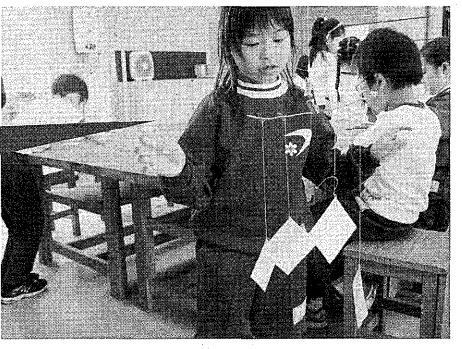
3．授業の実際

(1) みんなでバランスよくつなげていこう

歩美さんは対象から感じたことを大事に発想するとともに，細かな部分にもこだわって丁寧に活動に取組めるよさがある。本単元では全体としてのバランスを考えた広がりのある表現をしていく中で，様々な視点から物事をとらえることができるようになってほしいと願った。

初めに片方に紙のおもりが付いて傾いた状態のモビールを子どもに提示した。どうしたらバランスがとれるだろうかと問うと，すぐに「反対に紙を付ける。」と声が返ってきた。さらに，右側に紙を増やしたらどうしたらよいかと問うと，「左側に付ける。」「真ん中に付ける。」「左側のどこでもいいから増やす。」と様々な反応が返ってきた。そこでどのようにつないだらよいかグループで試すと，いくつもの方法が見つかり喜ぶ子どもたち。その中から，紙をもっと増やして下げたいと声が上がってきた。そこで，紙をどんどんつなげてバランスを取る造形遊びをグループで行うことにした。

バランスをとるには，端だけじゃなくて真ん中にも下げることができる。縦に２個ずつつないだり重ねたりするとバランスが取れるよ。

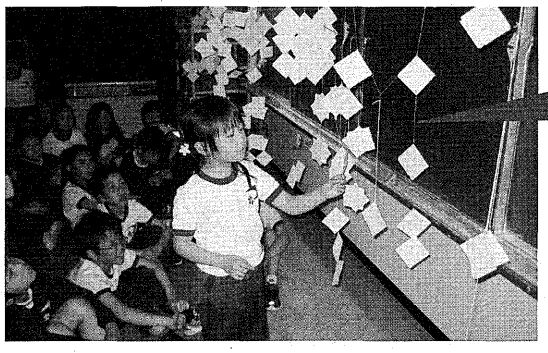


【紙の下げ方を試す歩美さん】

歩美さんは仲間と一緒にバランス遊びをする中で，中心から部品までの位置や重ねた枚数が中心を境に等しくなるように下げると釣り合うということに気づいてきた。

バランス遊びに十分浸り満足してきた様子が見られたので，つくったものを互いに鑑賞し合い，バランス遊びのよさを生かした表現の可能性を話し合うことにした。鑑賞では互いのつなぎ方や形のよさについて意見が出された。しかし，バランス遊びに含まれている動きの要素に目が向いていなかったため，つくった表現にライトを当てて鑑賞することにした。

歩美さんは自分のグループのつくった表現がゆっくり動いて光を反射する様子をじっと見つめ，「きれい。」とつぶやいた。



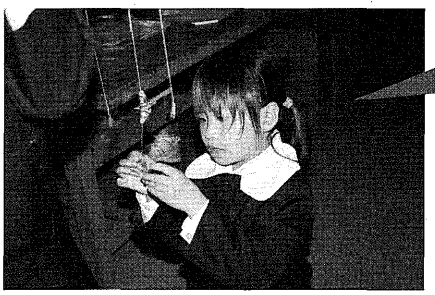
【動きのよさを確かめる歩美さん】

光と風に当てると，紙を重ねてつくったダイヤの形がくるくる回って踊っているみたい。

モビールの動きの特性に加え，光の当たり方でキラキラするよさに目を向け始めてきた子どもたちの表現意欲をさらに膨らませるために，ＰＰシートという透過性の高い材料を用いた作例をライトの下で吊るしてみた。歩美さんは，紙よりキラキラと光って動く様子を見て，「このＰＰシートを使ってわたしが考えた飾るものをつくりたい。」と声を上げた。歩美さんと同様に仲間とのバランス遊びで得た知識・技能を生かして自分の表現を進めたいと考えていた多くの子どもたちも，ＰＰシートを使った新たな表現への意欲を高めてきた。

(2) わたしの「キラクル　モビール」をつくろう

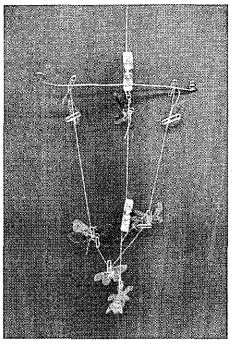
キラキラ光ってクルクル回ることから，この表現を「キラクル　モビール」と呼ぶことにした。歩美さんはモビールの動きや光を透過する美しさから,「ちょうと花」をテーマとしてつくっていきたいと願いをもってきた。



きれいな花を真ん中に下げて，その両わきにちょうを下げて動くようにするの。

歩美さんは花とちょうを取り付けると，さらにちょうを１匹加え，両わきのちょうと糸を結んで一つのまとまりとして表してきた。

花を真ん中にして両脇にちょうを下げたら，動いたときに楽しく花の回りを舞っている感じになってきたよ。



ちょうと花のキラクル モビール

歩美さんはできあがると作品をライトのところに持っていき，キラキラ光って動く様子を笑顔で見つめていた。他にもライトにかざして見つめている子どもや，互いによさを話し合っている子どもの姿が増えてきた。

多くの子どもが自分の表現に安定してきている状況と見取り，自分の表現に満足できず，どうしていけばよいか悩んでいた啓介さんについてみんなで話し合うことにした。「もし，わたしだったらこうする。というアイディアはありますか。」と尋ねると，仲間から次々とアイディアが出され，啓介さんはこれからの見通しがもてたと満足していた。そこで，「みんなの中にも友達からアイディアをもらいたい人はいますか。」と問いかけると，歩美さんを含めて大勢の子どもが挙手した。これを仲間の視点から見た自分の表現の可能性に興味をもってきた姿と見取り，双方向の鑑賞活動を行うことにした。

つながっているところを，もっとばらばらにしたら回るんじゃない。

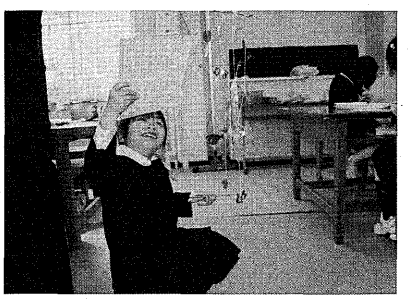
回るようにしたいけど，針金をどうしたらいいかな。

多くの友達と鑑賞し合った歩美さんは，その後の話し合いで，「ちょうや花が回るようにばらばらに下げたい。針金を下に付けたり，ちょうや花を増やしたりしてよく回る方法を考えたい。」と発言してきた。これは歩美さんの願いである，ちょうが楽しく花の周りを舞う様子を表すために，動きの生み出し方と周りの装飾の付け方をどのようにしたらよいかはっきりさせたいと問いを焦点化してきた姿である。

(3) もっと「キラクル　モビール」をすてきにしたいな

どうしたらモビールがよく回るようになるか，針金の付け方やちょうや花をどのように増やしたらよいのかという問いを解決するために，自分の考えた方法を試しながらつくる場を設定した。

歩美さんは，日名子さんの「もっとばらばらにする。」の指摘のように，真ん中のちょうと左右のちょうをつないでいた糸を解いた。そして，花とちょうの高さを見て，花よりも少し高い位置にちょうがくるように左右の糸を調節した。下敷きをもって自分のモビールを下から見上げながら仰ぐと，歩美さんは，「えっ，あ。すごい。」と声をあげた後で笑顔を見せた。



歩美さんはこの後すぐに針金をもらいに来た。どうするのかと尋ねると，「ちょうがくるくるとよく回るようにして，下にお花を付けたいの。」と答え，切り取った針金を真ん中の花の下に左右のバランスを確かめながら取り付けた。

花をいっぱい付けたい。横だとごちゃごちゃしちゃうから，下のほうに針金を付けようと思ったの。

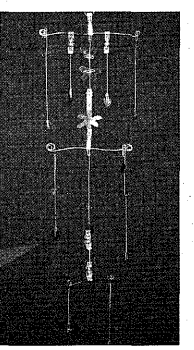
歩美さんはちょうと花の動きを確認すると，振り返りに「新しい仕組みを下に増やし，ごちゃごちゃしないように下げるとよく回る。次は花やちょうをこの方法でつくりたい。」と記述した。

歩美さんは糸をばらしてそれぞれの部品が独立して動く様子を見たことで，モビールの構造に対する見方を「自分から見た周りにちょうを回せればよい」から「どこから見ても回りになるようにちょうを回せればよい」と，空間の広がりをもった見方へと更新した。歩美さんはモビールの構造を更新したことで，新たな表現への見通しが明らかになってきた。

その後，花やちょうが楽しそうに回る様子を表すために，下に針金のモビールの分岐を付け加えていった。取り付けては下敷きで仰ぎ，回る様子を笑顔で見ている歩美さんであった。

モビールの動くところを増やしてちょうを下げる位置も変えよう。

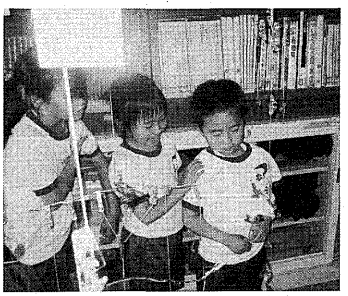
動くところを３段目まで増やしたら，お花畑で楽しそうに飛んでいるちょうやきれいな花の感じが表れてきた。



完成したキラクル モビール

ちょうや花がうまく回るようになると，それまで手をつけずにいた一番上の針金にも，青い花びらを付け足していった。なんで付けようと思うのか尋ねると，花びらがたくさん舞っているほうがもっと楽しい感じがするし，そのために回る時に他の部品にぶつからないように高さをずらしたと話してきた。回るためにはそれぞれの動きを妨げない位置に下げることが大切と気づき，さらに分岐を増やすなど，更新したモビールの構造に対する見方をもとに発想・構想を再構成し，動きの豊かな表現をつくりあげた歩美さんであった。

(4) 「キラクル　美術館」をつくってみんなに見てもらおう



自分にとって新しい表現をつくりだした歩美さんは，自分のがんばりをより多くの人に見てもらいたいと考えていた。そこで，どうやってみんなに見てもらうか話し合う活動を組織した。

作品は図工室に照明を設置して美術館のように展示することになった。会場では案内係になり，訪れた子どもに声をかけながら作品のよさを伝える歩美さんの姿があった。

> 私のモビールは３段階まであります。図工でがんばれるようになったのは，あきらめないで自分の作品をもっとよくなるようにアイディアを出したところです。前は自分の作品がだめになるとアイディアを考えようとしませんでした。でも今はもっとよくなるように一生懸命に考えることができるようになりました。

歩美さんの振り返りからは，よいものを生み出していこうと粘り強く思考することができたことを自分の成長ととらえていることが読み取れる。様々な鑑賞の場面で自分の表現とじっくり対話し，細部を丁寧につくることのできるよさに加え，モビールとしての動き方を考えながら広がりのある形をつくるなど，見方を全体へと広げることができたことが歩美さんの成長である。

Ⅲ　成果と課題

成果　核となる造形技能に対する見方を更新し，新たな表現に向かう意欲の高まりが，双方向の鑑賞活動により生み出された。

自分がアドバイスしたい友達やアドバイスしてもらいたい友達を決めて鑑賞したところ，動きに関するものや主題に関するものなど自分の表現になかった点からの指摘を受けることができた。

よさを互いに指摘しあうだけではなく，更なる可能性や表現上の課題に対して伝え合うことで自分の表現との対話が充実し，自分にとっての新たな表現に向かっていこうとする意欲を高めていくことができる。

課題　表現効果を試しながら練り上げる場の在り方を検討していく。

高学年などは，試しにつくる中で効果を比較してから方法を決定することが多いが，３年生ではつくることと試すことが同時になされることが多い。思うような表現ができなければつくり変えようとするが，安定してしまうと表現に見直しをかけてくることは難しい。表現意欲を損ねずに，試しながら表現する場をどう位置づけるのか考えていく必要がある。

＜主な参考文献＞

佐伯　　胖　訳　　1993 『状況に埋め込まれた学習』 産業図書
竹内　　博，春日　明夫，長町　充家，村田　利裕
　　2005 『アート教育を学ぶ人のために』 世界思想社